

[研究会報告]

第 39 回国際小児保健研究会報告

高橋 謙造 (世話人) ¹⁾

1) 国際医療福祉大学臨床医学研究センター
山王病院 小児科

I. テーマ：「子どもとエイズ」

II. 開催日時：2011 年 11 月 5 日

III. 場所：東京大学 医学部教育研究棟 第 1・2 セミナー室

IV. 概要

A) 講演 ”Children affected by AIDS in the school-their psychosocial health problems and the role of the school”

講師 石川尚子医師 (国立国際医療研究センター派遣協力課)

まず、石川尚子さんによる講演が行われた。内容は、2005 年から 2006 年にかけて北部タイの一地域の学校において行った AIDS 孤児に関する調査をまとめたものであった。

半構造化インタビュー、参与観察、描画法等を組み合わせた調査を通して石川さんが導き出した結果は、AIDS 孤児を関わる大人たちが AIDS の話題を避けようとしてしまうことや、子どもたち自身が存命の親の AIDS 発症の心配や自身の HIV 感染可能性への心配を誰にも話せずにいることなどであった。石川さんは、この AIDS によって作られるコミュニケーションの妨げを「沈黙の壁」と名付けている。また、AIDS 孤児の周囲の児への調査により、子どもたちは AIDS 孤児をサポートしたいと考えているが、HIV への恐怖心はその行動の妨げとなっていること、感染ルート等に関する正しい知識を提供することで接し方が改善されること等を明らかにし、これらの知見から学校がサポータティブな環境を作るのに重要な役割を果たすことを結論としている。

発表は、孤児たちからの聞き取り内容等をそのまま提示する形式であり、非常にリアリティがあり、まさに「切れば血が出るような」生々しくも素晴らしい発表であった。

B) 指定発言 エイズ孤児支援 NPO PLAS の活動

発言者 加藤琢真医師 (けいゆう病院小児科)

講演に続いて、加藤琢真さんからの指定発言として、彼が主催してきた AIDS 孤児支援 NPO 法人 PLAS の活動に関する発表があった。学生時代のウガンダでのエイズ孤児との出会いの経験に端を発し、NPO 法人 PLAS(<http://www.plas-aids.org/>)の立ち上げに至る過程が紹介され、エイズ啓発の活動、中でも母子感染予防に焦点を絞った活動戦略も紹介された。

学生時代の NPO 立ち上げもエイズ孤児の出会いからわずか 3 カ月という短期に行われており、「絵に描いた餅」ではなく実のある活動を実践しているバイタリティは、若手の多くに強い刺激を与えることができたと確信している。